

第 3 回 学校運営協議会

令和 4 年 10 月 5 日（水）2 時 30 分

出席者

会長	妹尾 久雄
副会長	新井 利勝
コーディネーター	小野 修平
委員	鈴木 綾
委員	友田 弓子
委員	宮本 尚登（校長）
委員	矢崎 慶（副校長）
	海老塚京子（教員）
	小川 壮司（教員）
	宮崎 孝平（教員）

1 会長あいさつ

昨年、明保中学校がコミュニティ・スクールに指定され、学校運営協議会が設置されてから、今年度は市内に小学校を含めて 7 校に増えた。今後は更に成果を出していきたいと考えている。協力をお願いしたい。

2 学校からの報告

○上履き及びネクタイの仕様変更について

- ・令和 5 年 1 月からの値上げに伴い、安価な上履きに変更する。

現行の上履きも引き続き使用可とするため、新たに購入する必要はない。

- ・標準服を変更することは、リサイクルができなくなってしまう点、流行は繰り返さし変わる点等を踏まえ、考えていない。ジェンダーの問題を意識した結果、準備が整い次第、リボンタイを廃止する方向で検討している。このことに伴い、ネクタイのデザインを変更する。新デザインは、生徒投票等により決定する予定である。なお、在校生に関しては、引き続き現在のネクタイ及びリボンタイを着用可とする。

○夏服標準服における軽装スタイルの導入について

- ・猛暑日及び温暖化防止対策として、標準服の軽装化を検討している。新 1 年生については、夏服の購入せずに、衣料品店等で購入できる紺色のポロシャツ、黒のズボンを各自で準備し着用することも認めていきたい。このことは、安価で準備をできることから、保護者の皆様の経済的な負担の軽減にもつながると考えている。

委員：新しい上履きのラインの色は学年カラーか。

校長：そのとおりである。

委員：新しいネクタイは生徒の投票で決定するのか。

校長：実際に着用する生徒の声を反映させていきたいと考えている。

委員：ネクタイは結ぶタイプのみか。

校長：結ぶタイプと、結んだ形にできていて金具で引っ掛けるだけのタイプの2タイプがあり、購入するときに選択できるようにしたい。

委員：ポロシャツは同じようなものであれば、どこの店のものでも良いのか。

校長：そのとおりである。

委員：ズボンはジャージとは違うのか。

校長：ストレッチ素材のズボンを推奨品として例示しようと考えている。現在の標準服のズボン・スカートにポロシャツを着用することも認める方向で検討している。

委員：冬はどうするのか。

校長：セーターやコートの着用を認めている。

委員：セーターでネクタイが見えなくなるのではないか。

校長：特に問題ないと考えている。

委員：数年前にタイツも認められ、女子にとっては嬉しい。

委員：私服の要望は出ていないか。

校長：出ていない。

委員：小学6年生の保護者の中では、明保中の標準服の評判があまり良くないように感じる。近隣の学校でも標準服が変更されたので、明保中も変わるのを希望していた。

校長：ネクタイのみの変更でもイメージが変わる。標準服はネイビーのシンプルなデザインで変更は考えていない。

委員：女子のリボンが一番不評だと聞いている。

委員：ネクタイが変わるだけでも印象が変わって良いと思うので賛成である。

○地域協働特別企画「消えたプリンの謎を追え」について

- ・10/24（月）に保谷駅周辺の地域の皆様に協力していただき、体験型の推理ゲームを行う。当日は、学校で事件が発生する動画を見て、全校生徒が班ごとに駅前に出かけて手がかりをもとに、犯人がどんなトリックを使ったか等を推理して、プリンが消えた謎を解いていく。午後は先生と生徒がフリースローやP Kで対決する「VS 先生（仮称）」を計画している。

3 各委員からの報告

○学校応援団プロジェクト第2弾の報告

・7/9(金)と8/1(月)の2日間にわたって、昇降口の扉及び下駄箱のペンキ塗りを行った。多くの先生方、中学生に参加していただき、楽しくできて綺麗になった。なお課題は以下の3点であると考える。

- ①申し込み方法を生徒向けのチラシのQRコードから読み込む方法にしたが、個人のスマホでは読み込めたが、生徒のタブレットはセキュリティの関係で読み込めなかった。
- ②地域の方にとって、すべて平日開催は厳しい。地域の方の参加がないと先生方の負担が増える。平日と休日を組み合わせる方が良いと思う。
- ③休憩を取りながら作業したが、学校の玄関に熱がこもったり、ペンキの匂いが残ったりしたため、今後も安全管理を徹底したい。

・今後は、学校応援団1回目、2回目に参加していただいた方とワークショップ形式でアイデアを出し合って話を進めていきたい。

○道徳授業地区公開講座

・10/15(土)道徳授業地区公開講座の4校時に1年生中心のワークショップを開催することで、地域学校協働活動とは何か、コミュニティ・スクールとは何かを知らせることを入り口として、今後の取組に向けたアイデアを出し合っていきたい。50分という限られた時間の中で、深いところまでやっていくのは厳しいため、事前に全校生徒にGoogleフォームを使用した簡単なアンケートに答えていただき、当日参加する1学年生徒、保護者、高校生、大学生を中心にアイデアを出してもらった。このワークショップが1回目となるので、今後、2回目、3回目と意見を出し合いながら、具体的な活動内容を決めていきたい。

委員：ワークショップのグループはその場で作るのか、卒業生もグループに入るのか。

教員：3校時の道徳でつくったグループで行う予定である。

委員：卒業生に来てもらって、できれば各グループに一人ずつ入って、進行役をやってほしい。事前アンケートもやってみたい。

委員：事前アンケートに答えることによって、話し合いの内容がわかると思う。

委員：準備の日数が少ないこと、アンケートのセキュリティの問題等から、QRコードでなくてもよい。

教員：アンケート項目を学校にいただいて、学校の中で生徒に配布すれば、回収して

集計できる。

委員：負担を増やすかもしれないが、可能であればお願いしたい。

委員：先生方の中で、コミュニティ・スクールについて共通理解は図られているのか。

委員：わかりづらいと思う。

委員：先生方にもアンケートをとったらどうか。

委員：コミュニティ・スクールの話が去年急に出てきて、わかっている人は非常に少ないのではないか。

委員：年に数回は教員も熟議に参加する必要があると考える。今後の課題だと思う。
アンケートは、今回は生徒だけで良いと思う。

委員：グループワークはテーマを一つにしてシンプルにしていきたい。何かご意見があれば伺いたい。

○放課後ステイルーム

・2学期の放課後ステイルームは、中間考査前の2日間（10/3・10/4）開催した。

1日目は、1年生9名、2年生3名、3年生1名 合計13名

2日目は、1年生5名、2年生9名、3年生3名 合計17名が参加した。

2日連続の参加者は、1年生5名、2年生2名、3年生1名 合計8名である。

・1年生は、1学期は何を勉強して良いかわからない様子だったが、今回はやることを決めて来ている感じで集中して取り組んでいた。

・卒業生にも来ていただいて、特に数学は質問の列ができ、予定時間を過ぎても全員に対応していただき、感謝している。質問した結果、理解できて喜んでいる生徒もいて、今後も良い場所になると感じている。期末試験の前は、11/10（木）、11/11（金）を予定している。

4 熟議「地域学校協働活動の方向性」

委員：「学校運営協議会は報告ではなく協議する場である。」というところを重視していかなければいけないと感じる。報告から発展してさらに協議につなげていくということが喫緊の課題になってくると思う。

委員：絵に描いた餅にならないようにするためには、やはり保護者・地域の方に関わっていただかないと現在のメンバーでは厳しいので、学校公開を皮切りにさらに広げていく方向性を示させていただいたが、まずは何をやるかによって今まで関わってきた方や新たな方で当事者意識を高めていく取組の方向性・視点が大事ではないかと思う。

委員：この学校で何をしていくのかが共有されていないと、個別の深い問題について話し合っていくのは難しいと感じる。

委員：先生方が大変になっているのは、求められている仕事が増えているにも関わらず、先生の数が増えないことが問題だと思う。地域が肩代わりすれば良いとは思えない。

委員：働き方改革に関しては、待ったなしの状況である。教員のなり手がいないことには質の高い教育はできない。

委員：一般論ではなく、明保中はどうするのが良いかを協議できれば良いと思う。

委員：今まで活動している育成会・運協・教師と保護者の会がコミュニティ・スクールの中にどのように取り込んでくるか、実際に一緒にやっているにも関わらず、その部分については私たちの中でまだ想像がつかない部分がある。一緒に話をしましょう、一緒にできることは何でしょうと言われてもイメージできない。コミュニティ・スクールと育成会は別のものという感覚がどこかにあって、また新しいことを始めたという感じになってしまって今までやってきたことは何なのかというふうになりかねない。そうではなく、一緒に同じことを同じ方向を向いて子どものためにやりましょうということについては、今までの育成会も全く同じ意識でやってきているので、コミュニティ・スクールに関わるということはどういうことかということについてはたぶん腑に落ちてない。

委員：地域の方が地域を担って関わっているのは当然だが、今までと同じように続けていけると思っていたが枠組が変わった感覚があって、コミュニティ・スクールが降ってきた印象がある。

委員：市教委の説明も、地域学校協働活動は既存の活動も地域学校協働活動だという言葉分だが、そこをどうクリアするか、当事者の方が集まるような場がなければいけないと思う。育成会や運協がそれぞれ定期的に集まる会議を設定して、お互い情報共有してやらないことには意味がない。

委員：育成会はそういう場だと位置づけて動かしていたところがあるが、コミュニティ・スクールが始まったら、育成会はどう入るか、かみ合っていないと感じる。東小はたまたま明保中と関わっているが、他の中学校にはいくつもある小学校の育成会がどのように関わっていくのかイメージできない。小学校と中学校の関わり方を話し合っていないと矛盾ばかりが広がっていくように思える。

委員：まずその場がないと始まらない。

委員：そういう場と作るのは誰がやるのかというとコーディネーターかと思う。

委員：全市全部となると大変だと思うので、関わりを始めたところからやっていって、他にも提案してアレンジしていけると良い。

委員：10/15に行うワークショップで1年生から出た意見を材料にして、第2弾、第3弾と育成会や先生方の意見を聞いて積み重ねていくしかないと思う。

委員：コーディネーターとしては、ワークショップを何回か繰り返して、みんなで考える。そこからアイデアが出てきて、報告して何ができるか話ができたら良いかと思う。

委員：議論して輪を広げて仲間を増やして、2回行ったペンキ塗りの他に新しい企画を巻き込んだ方と一緒に考えていく感じで少しずつ広がるのが地域学校協働活動の方向性じゃないかと思う。

委員：お祭りをやりたいという意見があったが、それは是非本当にやりたい。楽しいことを一緒にすると元気が出るし、仲良くなるし、次も一緒にやろうという一番の原動力になるから、学校を超えて小・中一緒にできたら良いと思う。

委員：これまで大人が生徒のためにやってきていたが、小学生と一緒にという形でやりたい。

委員：次回の学校運営協議会では、今回の内容をメインにした話し合いができると良い。

委員：次回の学校運営協議会で、10/15のワークショップの話ができる。

委員：中1・保護者・高校生・大学生から出た話を材料にしながら、学校運営協議会で考えたり、第2回ワークショップで話し合えるかもしれない。

委員：中学生は地域の方がこんなに動いているということを知らないと思う。保護者に対しても、土曜公開等で地域の取組を広めていただけると変わってくると思う。教師と保護者の会は学校との関りや地域の方との繋がりをもてて、思うほど大変ではないことを伝えられるように、今のやり方を見直して負担なくやりたい。

委員：去年と同じようにやるのは、前例があるのでわりと楽にできる。2年半何もないとコロナ禍以前のことを知っている人がいない中で始めることになるので難しい。共働きのご家庭が多く大変だが、やってみてこそということが伝わると良い。そこで一緒にやってきた仲間は、この先も地域で何かしようという思いが繋がっていくと思う。

※次回 令和5年1月25日（水） 14：30～